

トビウオ通信 (令和3第10号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和3年度下半期浮魚中長期漁況予報》

令和3年10月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を参考に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類の令和3年度下半期(11～3月)の漁況を予測します。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和3年度下半期(11～3月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並み

マイワシ:前年を上回る

カタクチイワシ:前年を下回る

ウルメイワシ:前年を上回る

※「前年」は令和2年度下半期、「平年」は過去5年(平成28年～令和2年)の平均値を示します。

マアジは前年並み

東シナ海～日本海の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は2～5万トン程度で推移しています。令和2年の漁獲量は2.4万トンで、前年の1.2倍、平年の8割でした(図1)。令和3年1～9月の漁獲量は2.0万トンで前年同期並みでした。

直近の漁況や調査船調査の結果などから、東シナ海における沖合域、沿岸域の今後(11～3月)の漁況は前年並み、日本海における今後(11～3月)の漁況は前年並みと予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は平成16年以降1.5～4万トン程度で推移しています(図1)。令和3年1～10月の漁獲量は8.1千トンで、前年同期の7割・平年同期の5割でした。月別の漁獲量は、平年を下回りながら推移し、漁期のピークとなった5月は1.7千トンでした(図2)。

今後(11～3月)の漁況は、漁獲の主体となる0歳(令和3年生まれ)・1歳(令和2年生まれ)の来遊量によって決まります。毎年、島根県が他の研究機関と共同で行っているマアジ新規加入量調査* (マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量の調査)の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を下回る値だったため、0歳魚は前年並みか前年を下回ると予測されています。1歳魚の資源量は前年と同等の資源量と考えられています。これらの状況および直近の漁況を考慮して今後(11～3月)の漁況は、前年並みと予測します。

※詳細については「トビウオ通信令和3年第7号」をご覧ください。

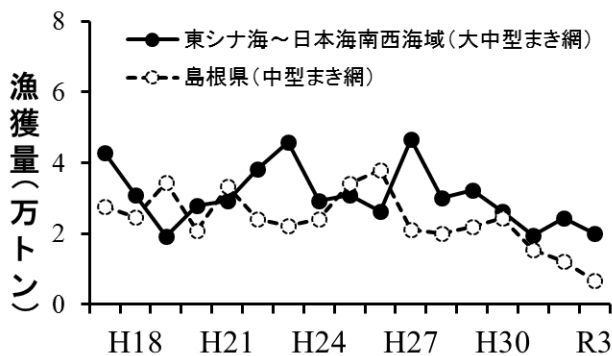


図1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバの漁獲動向
※令和3年は1～9月の集計値

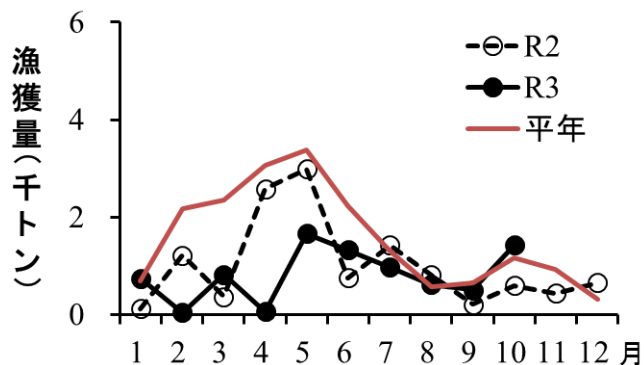


図2. 島根県の中型まき網によるマサジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、3～5万トンで推移しています。令和2年の漁獲量は1.5万トンで、前年の6割、平年の4割でした（図3）。令和3年1～9月の漁獲量は2.1万トンで前年同期の1.8倍でした。東シナ海～日本海南西海域における沖合域、沿岸域の今後（11～3月）の漁況は、前年を上回ると予測されています。一方、日本海における今後（11～3月）の漁況は、前年並みと予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は、1～2万トン程度で増減を繰り返して推移しています（図3）。令和3年1～10月の漁獲量は6.6千トンで、前年同期並み、平年同期の4割でした（図4）。

今後（11～3月）の漁況は、漁獲の主体となる0歳（令和3年生まれ）・1歳（令和2年生まれ）の来遊量によって決まります。例年、10月以降が主漁期となり0歳魚主体の漁獲で1歳魚以上が混じります。0歳魚および1歳魚の資源量は前年を上回ると予測されています。年齢別資源量は比較的良いとされているものの直近の漁況を考慮して今後（11～3月）の漁況は、前年並みと予測します。

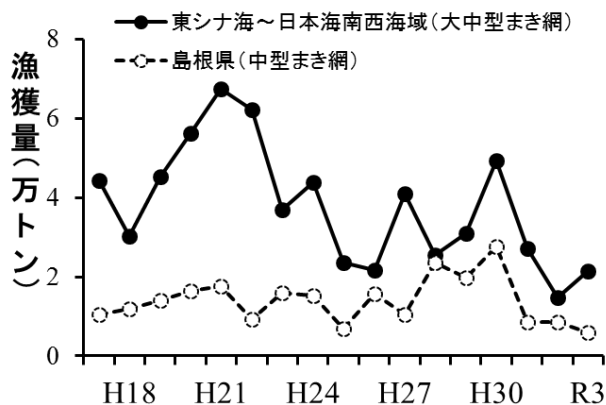


図3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバの漁獲動向
※令和3年は1～9月の集計値

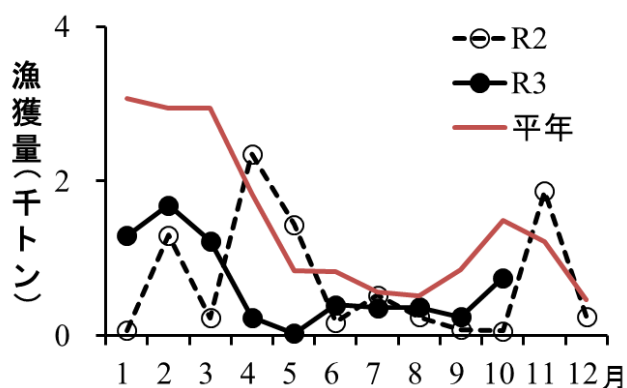


図4. 島根県の中型まき網によるマサバの月別漁獲動向

マイワシは前年を上回る

令和3年の山口県～鹿児島県沿岸域における4～8月のマイワシの漁獲量は0.7千トンで、前年同期の5割、平年同期の4割でした。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成22年まで極めて不調でしたが、平成23年以降急増し、平成26年及び令和元年を除いて2～4万トン程度で推移しています(図5)。令和3年1～10月までの漁獲量は2.8万トンで前年同期の1.1倍、平年同期の1.5倍でした(図6)。

今後(11～3月)の漁況は、0歳魚(令和3年生まれ)・1歳魚以上(令和2年以前生まれ)の来遊量によって決まります。0歳魚および1歳魚の資源量は前年を上回ると予測されています。資源量が比較的多いこと、直近の漁況から今後(11～3月)の漁況は、前年を上回ると予測します。

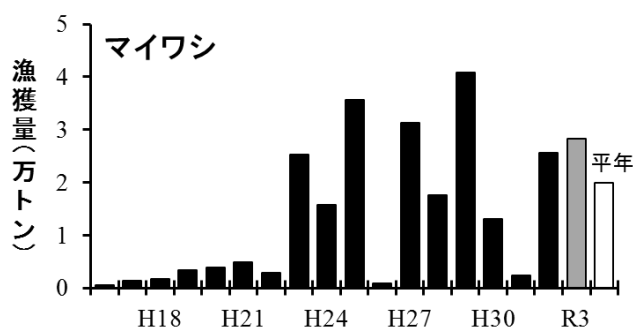


図5. 島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲動向
※令和3年は1～10月の集計値

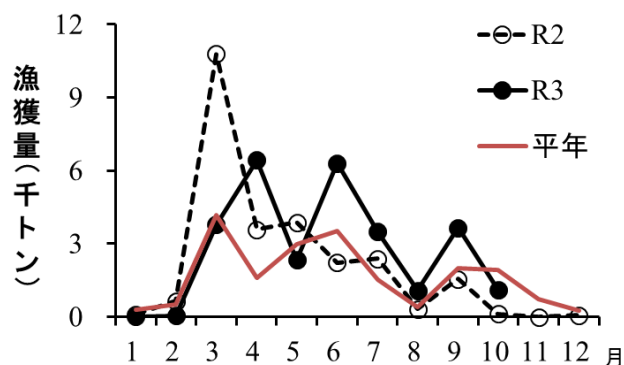


図6. 島根県の中型まき網によるマイワシの月別漁獲動向

カタクチイワシは前年を下回る

令和3年の山口県～鹿児島県沿岸域における4～8月のカタクチイワシの漁獲量は5.1千トンで前年同期の8割・平年同期の5割でした。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成22年に1.5万トンの漁獲がありましたが、その後、減少傾向にあります。令和3年1～10月までの漁獲量は4.5千トンで前年同期並み、平年同期の1.6倍でした(図7)。

今後の漁況(11～3月)は、0歳魚(令和3年秋生まれ)・1歳魚(令和3年春生まれ)の来遊量によって決まります。0歳魚の資源量は前年を下回ると予測され、1歳魚は前年と同等と考えられます。資源量は前年並みか下回るとされていますが、昨年は1～3月に平年を大きく上回って漁獲されたことを考慮して、今後(11～3月)の漁況は前年を下回ると予測します。

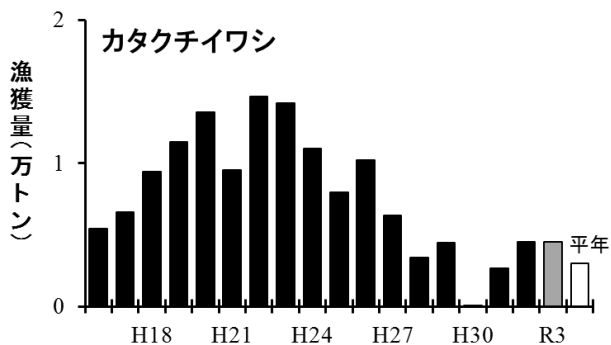


図7. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向
※令和3年は1～10月の集計値

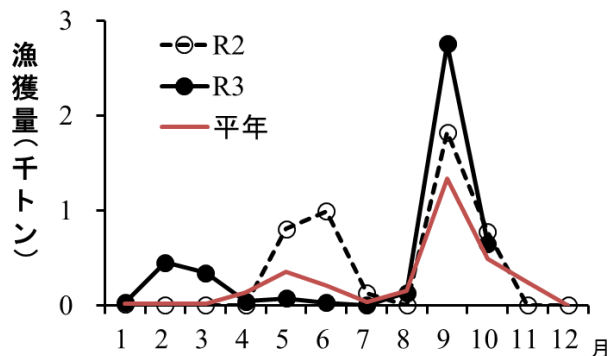


図8. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシの月別漁獲動向

ウルメイワシは前年を上回る

令和3年の山口県～鹿児島県沿岸域における4～8月のウルメイワシの漁獲量は0.5千トンで、前年同期の2倍、平年同期並みでした。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成16～30年までの間は豊漁であった平成23年、25年、令和元年を除いて概ね3～9千トンで推移しています。令和3年1～10月までの漁獲量は9.9千トンで前年同期の2.5倍、平年同期の1.7倍でした(図9)。

今後の漁況(11～3月)は、0歳魚(令和3年生まれ)・1歳魚(令和2年生まれ)の来遊量によって決まります。0歳魚および1歳魚の資源量は共に前年を上回ると予測されていることから、今後(11～3月)の漁況は前年を上回ると予測します。

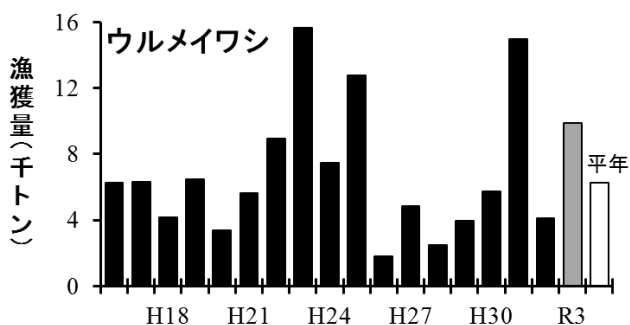


図9. 島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向
※令和3年は1～10月の集計値

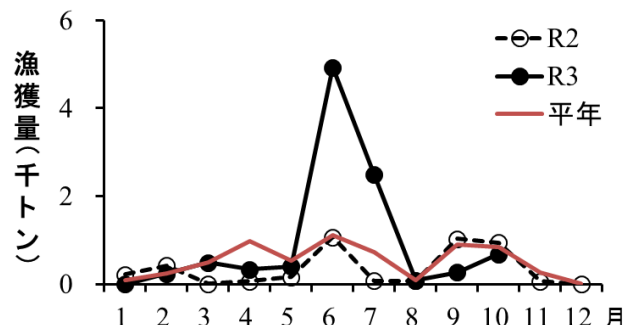


図10. 島根県の中型まき網によるウルメイワシの月別漁獲動向